



北米ホーリネス教団  
オレンジ郡  
キリスト教会  
「週報」

2014年の努力目標

1. 朝の15分の祈りを大切に。
2. 1日2章の聖書日課に励む
3. 日ごとの写教に励む
4. 定期の祈りに参加
5. 聖書研究・家庭集会への参加
6. 礼拝欠席の時は牧師に連絡を。

◎集会案内◎

日曜 礼拝 : 9:30~10:45am  
 ユービー・アワー : 日曜日 10:45~11:15am  
 聖書の学び : 日曜日 11:15~12pm  
 みふみ会 : 水曜日 10am  
 定例祈祷会 : 水曜日 7:30pm  
 早天祈祷会 : 土曜日 7am  
 家庭集会 : 各地区に2箇所  
 牧 師 : 杉村 宰 (日本語部)  
 : 益田デーロ (英語部)  
 電 話 : (714) 827-6244 (教会)  
 : (714) 527-1456 (牧師館)  
 E-Mail : sugimura1950@gmail.com  
 教会ホームページ : www.occc.org  
 教会所在地 : 4872 Bishop St.  
 Cypress, CA 90630

石 叫

◎石叫■

「聖地旅行」その⑭

どんな戦いでもしんがりというのは恐怖である。いつふいに敵の残党が襲って来るかも知れないからである。これまで主が「しんがりとなられた」というのは尻拭いの意味だと学んできたのだったが、今回の経験で、それは恐怖を取り去る意味なのだ実感した次第である。主が先頭に立ち、主がしんがりであるならば、それはどんなに心強いことであろう。ちなみに、しんがりとは漢字で「殿」と書く。忠義な武士たちは殿が彼らの骨を拾ってくるから、そして残された家族の面倒を見てくれるから、安心して戦場に出かけられたのだ。

その日オリーブ山という神殿の東側にある小高い丘から、黄金に輝くモスクを見ていた時だった。姉が僕に「節ちゃんのリングはどうしたの？」と聞いてくるではないか。僕はそれまで家内とのリングのことはすっかり忘れてしまっていた。その日は写真の家内に神殿を見せることも忘れていた。絶えず一行のしんがりを務めなければならぬので、それどころではなかったのだ。そのリングとは神学生のとときの僕と家内との婚約指輪で、フアンタ・グレイブの缶のリングだった。当初、聖地旅行だけは一緒に行こうと約束していたのに、家内は病を得て、先に天のエルサレムに一人帰って行ってしまった。そこで僕はヨルダン川で姉が洗礼を受ける記念に、そこに埋めるつもりでいたのだが、それも忘れていた。しかも、次の日はもうエルサレムを去る日だった。そこで、翌朝も祈るために西壁に行く予定だったので、そこに埋めることにした。姉と僕の同室の稲野先生と、平湯先生の4人で嘆きの壁で最後の祈りをするために出かけた。そこは男女一緒にお祈りはできない。そこでお互いに別れる前に皆で祈り、僕は一人でリングを埋めるために壁に向かった。その日も三十分ほど祈った。帰り際にリングを壁に埋め込もうとするのだが、そこにはこれまで祈りを捧げた無数の人々の祈禱のしおりが挟んであり、リングですら入らない。そこで地面のすき間に埋めることにした。このリングが今後お互いの魂を繋ぐ輪となっていくまでもお互いの心がそこにあるように、との祈りを込めて、堅い石灰岩の敷石の間に、ねじり込むかのようにして入れたのだった。だが、何か家内をそこに一人残してゆくかのように、後ろ髪が引かれる思いであった。

聖書は「あなたの宝のある所には、心もある」(マタイ六・21)と言う。僕にとってそのリングはどんな宝よりも高価で愛しいものだ。それをエルサレムに埋めてきた。僕の心は生涯、そこから離れることはないであろう(続く)。

「オレンジ郡キリスト教会の歩み」

オレンジ郡キリスト教会は1977年に発足し、東洋宣教会・北米ホーリネス教団に所属するプロテスタント教会の一つです。北米ホーリネス教団は1921年に創立され、現在は日英両語合わせますと2000名を越える会員になります。

私たちの教会は18世紀に、英国で始まったジョンウェスレーによるメソジスト教会の流れを汲みます。そして他のプロテスタント教会同様、3世紀以来告白され続けてきた使徒信条を、私達の信仰告白と致します。

